

学習内容が生徒にとって自分ごとになる工夫



「教科書に記述されているから」、「入試で出題されやすいから」この問題を扱うのではありません。他人ごとではなく「自分ごと」として捉えることができるように問題の提示を工夫し、学習意欲を高め、主体的に学ぶ力を育てていくことが大切です。

また、生徒自身が伝えたい、聞きたい、知りたいと感じる場面設定を工夫し、言語活動によって確かであり深い理解に到達させることも大切です。

<導入場面について>

- 生徒が意欲を高めるよう、実態に応じた学習課題の内容や提示の仕方を工夫する。
- 目標を達成するための見通しのもたせ方を工夫する。

<展開場面について>

- 問題の数値や条件、問い方を変えるなどして、生徒の思考を促すような授業展開をする。
- 生徒の疑問やつまずき、誤答を生かし、生徒の理解が深まるような問いかけを工夫する。
- 生徒同士の対話や、説明と質疑応答などの活動を取り入れる。
- ICTを用いて、事象の数学的な特徴を調べたり、他の事象との関係を考察したりするなど効果的に活用する。



<まとめや振り返りにについて>

- 生徒が自分の言葉で振り返り、新たな課題を見いだしたり、既習の内容との関連を考えたりする場面とする。